

2025 年度予算は

◆水道基本料金と給食費が一部無償化します

食品などの値上げで暮らしに厳しい状況が続いています。羽生市では物価高騰対策として、水道基本料金の2か月間（5月・6月検針分）の免除と、学校給食費の5月分の無償化が決定しました。※申請等は必要ありません



◆のりあいタクシー全市民が利用可能に

これまで利用の対象が限定されていた「のりあいタクシー」が、4月から全市民が利用可能となります。習い事の小学生や運転に不安のある妊婦さん、様々な理由で免許返納された方など、申請していただくことで誰もが500円で利用可能となりますので、ぜひご活用ください。

◆プールの民間委託が始まります

プールの老朽化により学校での授業が困難な学校（北小、南小、岩瀬小）で、水泳学習を今年度から民間委託することになりました。各学校1学年当たり10時間（2時間×5日間）の予定で、バスによる送迎含めて997万円の予算となっています。

民生費の割合が増えています



予算の43.7%
93億円が民生費

年々増える「民生費」とは、医療や福祉、子育てのための予算で、私たちひとり一人の生活に大きく関係しています。日々の健康管理を進め、医療機関のかかり方を見直すなどで「これからも必要な時に安心して医療を受けられる」ための取り組みが求められています。



インクルーシブ教育

障がいのある子もない子も、すべての子どもたちが一緒に学ぶことを目指す「インクルーシブ教育」はなぜ注目されているのでしょうか？

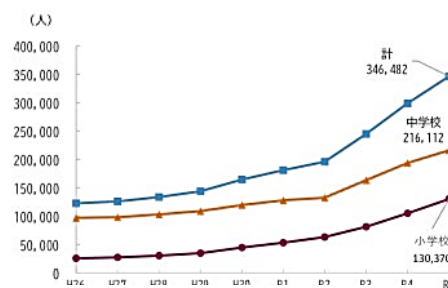
特別支援学級への通学

少子化が進んでいますが、特別な支援が必要な子どもたちは全国的に増加しています。羽生市でも平成30年に93人（全体の2.4%）だった特別支援級に在籍する児童生徒は、令和5年に160人（4.8%）と倍増しており、障がいの種類や程度に応じてクラスを分けての学びが進められています。

特別支援学級の児童生徒数・学級数



不登校児童生徒数の推移



グラフは共に文部科学省 HP より

増える不登校

同じく不登校の児童生徒たちも増えています。羽生市では平成30年に57名でしたが、令和5年は118名となりました。不登校には様々な理由がありますが、学校やクラスの息苦しさ、閉塞感が増しているのではないかと危惧しています。子どもたちに寄り添う支援と同時に、先生方が精神的に余裕を持てる環境も必要です。



学校現場は社会の縮図であり、「誰もが社会のなかで生活していく」ためには、みんなが同じ空間で一緒に過ごすこと、関わり合いながら支え合っていくことが大切と考えます。現在は教室を分けたうえで多様な環境での学びが行われており、その重要性は十分認識していますが、同時に通常学級に余裕を持たせること、支援を拡充し、通常学級を「誰もが安心して過ごせ学べる場所」にしていけることも重要ではないでしょうか。